

南の国の「ナデシコ」税理士

成功へのキセキ

第4回 働く専業主マになると決めた！

「こんな時にコドモができちゃって、どうしてくれるのよ?!」

私が妊娠の兆候に気がついたのは、自宅で細々とではありますが、これから自分の事務所をスタートさせようという矢先でした。せっかく自分のやりたい事を見つけたのに、なーんにも出来なくなっちゃうじゃない。

私の不機嫌さに耐えきれず、あろうことか、夫の口からでた言葉は、「じゃあ、う、生むの、やめる…?」「ぬわーに、言ってるの!!!信じられない!!!」と、さらに私の逆鱗に触れた心優しい夫。いま思えば、とんでもない八つ当たりですが、そのとき私は心の中で一つの決心をしました。

オトコの人と比較されても、仕事のクオリティは落とさない。そして専業主婦と同じように、コドモを育てる。

絶対に時間の足りない私は、仕事の量では他の人にかなわない。でも仕事の質では、誰にも負けないと決めたのです。同時に、子育てというせっかく与えられた、またない体験は、全て満喫したいとも思いました。

オムツは布オムツ。ミルクや小麦にアトピーがあったため、生活クラブで有機野菜を共同購入し、離乳食は野菜をすりおろして作りました。

「コドモのはじめて」も、体験することができました。はじめてハイハイしたとき。はじめて歩いた瞬間。オムツが取れた日。はじめてしゃべった言葉。欲張りな私は、全部を味わいたいと思ったのです。

公園デビューも果たしました。午前中は、公園で砂遊びをさせ、お昼前に自宅に戻って、コドモにシャワーを浴びせて、昼食の支度。午後2時から5時まで、ベビーシッターさんに預けて働く、という生活スタイルが、南の国の会計事務所の始まり始まりです。

優先順位も決めました。コドモが一番。仕事は二番。で三番目が夫(笑)。

ワーキングマザーが辛いのは、コドモの急な発熱などです。コドモはなぜか、肝心な時に限って熱を出す生き物です。とくにチームで働いているような業態だと、他のメンバーに迷惑

をかけたり、「これだから女は」と言われたりしないために、無理をしがち。

でも私は、完璧に割り切ることにしました。なぜならコドモは、「生もの」だからです。生ものだから、その瞬間に調理しないと腐ってしまう。でも仕事は、加工食品いわば「乾燥ワカメ」です。あとでお湯をいれて火にかければ、放置していても、なんとか復活させることができます。

その代わり、仕事が出来ない言い訳に「コドモ」を使ったことは一度もありません。短い時間内で、パフォーマンスをあげられない理由は、単に「私」の能力不足だと思ったからです。

それでも、一度だけ泣き止まないコドモにヒステリーを起こしたことがあります。仕事は溜まっているのに、ぐずってなかなかお昼寝をしてくれないとか、いま思えば他愛ない理由。「もー！泣きたいのはママの方よ!!!」とわめいたところで、コドモは余計に大声をあげて泣き叫ぶばかり…。

夕方、コドモを抱っこして買物に出た私に、「大変なのは、ちょっとの間だけだからね」と、ニコニコしながら耳打ちしてくださったのは、隣に住むおばあちゃんでした。恥ずかしくて何も言えず、足早に立ち去ったのを覚えています。

でも実際、そのおばあちゃんの言うとおりででした。コドモが大きくなると、私の自由になる時間は、格段に増えたのです。

幼稚園に入ると、朝10時半からお迎えまでの時間が自由になりました。週4日、お迎えをベビーシッターさんをお願いしたので、10時半から5時まで、働けるようになったのです。

小学生になると、お弁当作りがなくなったのと、一人で通学ができるようになったので、朝9時から事務所で働けるようになりました。4年生になると、週に2回ほど塾に通うようになり、なんとお迎え時間の8時まで残業もできるようになりました。

さらに中学生になると、夜一人で留守番も平気になってくれたおかげで、時間を気にすることなく働けるようになりました。高校生ともなると、ついに泊りがけの出張にも行けるようになったのです。

そしていよいよ、大学生。しかも大学は北海道に決まったので、ムスコは下宿することに。ついに私は、24時間を自分のためだけに使える自由を手に入れたのです。

これで思う存分、働ける!!

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」を全国1位の成績で、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性だけのスタッフ30名、一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に「小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本」「小さな起業のファイナンス」(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための土業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

…ところが、現実はいきませんでした。コドモの手が離れた途端、モチベーションが一気に下がってしまったのです。それどころか、6年間続けたお弁当作りからやっと、解放されたというのに、スーパーの野菜売り場を歩くだけで、ハラハラと涙がこぼれてしまう有様…。いま思えば、立派な燃え尽き症候群だったのでしょう(笑)。

そんな私を救ってくれたのは、「出版」との出会いでした。最初に書かせていただいたのが、『小さな会社の総務・経理の仕事がわかる本』(ソーテック社)です。子育て真っ最中のときにお声がけいただいていたら、到底書く時間はなかった。そういう意味では、私は本当にラッキーだったと思います。

かくしてムスコを育てながら、何とか事務所の規模も少しずつ大きくなり、今ではスタッフも30名になりました。どうして子育てしながら、事務所も拡大できたの?ときかされると、それはやっぱりムスコのおかげです。

子育てママなら普通だと思いますが、私も最初は自宅の一室に机とパソコンを置き、会計事務所をスタートさせました。リビングのソファに座り、コドモにミルクをあげながら、隣の仕事部屋で電話がなると、一瞬でマインドを切り替え、「はい!原会計事務所です。」と答える。

ところがこのマインドの切り替えが、自分でもびっくりするほどキツく、一日に何度も往復するのは、段々耐え難くなってきたのです。電話の音がするだけで、憂うつになる、気持ちが沈んでしまう…。精神のバランスを保つために、物理的な距離が必要と考えた私は、無謀にも、自宅から歩いて3分の場所にワンルームマンションを借りました。

どのくらい無謀だったかということ、マンションの家賃が月に10万円。私が事務所にいない間の電話番号として雇ったアルバイトの件費が15万円。会計ソフトの使用料が約5万円、し

めていきなり30万円の固定費が必要な羽目になったのです。これに対して、開業1年目の売上は、せいぜい月に10万円ぐらいだったでしょう。

儲からなくてもいい、せめて固定費ぐらいいは稼がなければ…と、営業をがんばらざるを得なくなったというわけです。

かくして、クライアントが増えれば、スタッフが足りなくなる→スタッフが増えれば、資金が足りなくなる→売上を増やすために営業をがんばる→クライアントが増える→スタッフが増える→スタッフを増やす→資金が足りなくなる→営業をがんばる…、という好循環が生まれました。

コドモがいたから、固定費がかかり、一生懸命働いた。コドモがいたから、短い時間内で、集中して働いた。コドモがいたから、仕事が楽しかった。コドモがいたから、原&アカウンティング・パートナーズは拡大していったのです。

この話を男性にすると、女性が働くのはやっぱり大変だねとか、働く女性の負担は大きいねとか、言われます。いやいや、一番かわいそうなのは、放ったらかしにされた夫でしょう(笑)。

それにしても、こんな風に人生のステージに合わせた働き方ができたのも、税理士という資格があったからです。資格を取るまでの私は、名無しの権兵衛。資格を取ったら、呼び名が「原さんの奥様」から「原先生」に変わりました。資格を取って、私の人生は確かに変わったのです。

巷では、資格を取っても食べていけないと言われていますが、いま勉強中の皆さん、資格を取ると、絶対にいいことがあるので、ぜひがんばってくださいね!

改定版 発売

会社のつくり方がよくわかる本 改訂版

原 尚美 著(ソーテック社) 1,480円+税

起業を考えている人や、会社にするべきか悩んでいる個人事業主のために、会社をつくる7つのメリット・3つのデメリットや会社にするタイミングについて書いた本。会社にすると決めた人には、世界一簡単な設立登記のノウハウ付きです。

